

ジカ熱(ジカウイルス感染症)を予防するために、

『夏の蚊対策国民運動』を推進しています。

＼広報強化月間の標語です／

最優秀賞

身仕度の 仕上げに虫よけ ジカ予防

小林美穂さん(13)埼玉県



優秀賞

まあいい力！では困ります。放置の溜め水、濁り水。

中山直子さん(47)福岡県

蚊の用心 しているあなたも 日本代表

大海寛輝さん(37)大分県

小さくも 大きな脅威 蚊に注意

大山藍さん(16)茨城県





この夏は、 ジカ熱に ご注意を！



澤穂希さん

正式名称は、「ジカウイルス感染症」。症状そのものは比較的軽く、かかっていても気がつかない人もいます。でも、油断は禁物。妊婦が感染すると、小頭症などの障害をもった子どもが生まれてくる可能性が指摘されています。蚊が本格的に発生する夏に向けて、みんなでジカ熱を予防しましょう！

症状は？

潜伏期間は？

感染ルートは？

- ・発疹・結膜炎・軽度の発熱
- ・頭痛・関節の痛み・倦怠感など

2~12日（多くは2~7日）程度

ヤブ蚊であるヒトスジシマカやネッタイシマカなどに刺されることによって感染。このうちヒトスジシマカは、日本でも秋田県及び岩手県以南に生息しています！

予防1 刺されない



肌を露出しない！

蚊が多い場所に行くときには

肌を露出せず、長そで・長ズボンを着用しましょう。



虫よけスプレーを使う！

また、蚊が家に侵入しないよう、

網戸の破れなどは補修しておきましょう。

予防2 増やさない



水たまりをつくらない！

植木鉢の受皿や雨ざらしのバケツなどに

水がたまらないようにしましょう。



海外渡航から帰ったら？

症状の有無にかかわらず、流行地域^{※1}からの帰国後2週間程度^{※2}、蚊に刺されないよう注意し、ウイルスをもつ蚊の増加を防ぎましょう。症状がある場合は、すぐに医療機関を受診してください。

！妊婦さん、妊娠の可能性がある方、パートナーの方へ

ジカ熱は、性行為によっても感染する可能性があります。

つまり、妊婦さんだけでなく、パートナーの感染予防も必要です！

- 流行地域^{※1}から帰国した男性は、症状の有無にかかわらず、最低8週間程度、パートナーが妊婦の場合は妊娠期間中、性行為の際にはコンドームを使用するか性行為を控えましょう。
- やむを得ず流行地域^{※1}に渡航した女性も、帰国後最低8週間程度^{※2}、妊娠を控えましょう。

※1 海外に渡航される際は、事前に中南米・東南アジア等の流行地域をご確認ください。※2 「2週間程度」と「8週間程度」は、新たな知見により変更されることがあります。